

平成 27 年 11 月 7 日
国際善隣協会

康楽県日中友好生態造林事業

康楽県は甘粛省の省都蘭州から南に 100 km に位置する。甘粛省は中国西北のシルクロードの起点とされ、ここから壁画で有名な敦煌か嘉峪関を経て、酒泉、玉門を通り、新疆省に入る。康楽県は臨夏回族自治州に属し、植生上は中国ハリモミの主産地であり、その苗床が多く、各地に点在している。ここはまた、省都、蘭州に吹き込む砂塵の入口に当たり、その造林は緑の障壁の役割を果たし、蘭州の経済発展、住民の健康的な生活を守る意味を持つ。

さて、ここに 3 年前から、30ha の丘陵地に生態林を造林してきたが、当初の計画 3 年で 100ha を目指したが、予算の都合で 80ha 程度に留まった。樹種は中国ハリモミ、速成柳が中心、何れも降水量の少ない自然状況に適応したものである。その灌水は地下水に頼る。

この 3 年間の成果を踏まえ、平成 27 年から、サイトを別に移し、年間 20ha の割合で第 2 期事業を展開することとした。今回康楽県については外縁部に拡大する余地が存在したので、第 2 期事業ができたが、当協会がこれまで植林協力してきた事業で土地に拡大の余地がなく、次の事業を断念したのが 2 件あるが、一つは大都市近郊、ここでは都市化の進展により、植林地の際まで都市部が迫った例であり、他の一つの東北地方では松花江支流嫩江沿岸では農民の同意が得られず面積の拡大を断念できなかった。これは都市化の拡大に従い、水を得られやすく、事後管理の容易な場所が減少しつつあることを示していよう。

永靖県劉家峡ダム区日中友好林造林

臨夏回族自治州に属する。蘭州市の郊外ともいふべきところで、蘭州の用水の水瓶である劉家峡ダムの堰堤に当たり、この植林はダム堰堤の保全の役割を果たす。このダムは新中国の建国後浅い 1950 年代に黄河本流に最初に建設された最初のダムであり、記念碑的意味を持つ。

ダム湖の水面の長いところは 40km に及び、現在では立派な観光地に変貌している。周囲の堰堤から眺める湖水面は非常に美しい。



劉家峽ダム

植林面積は計画では3年計画合計約80ha、初年度は経済林300ムー（20ha）と経済林に重点を置き、生態林100ムー（6.6ha）の合計400ムー（26.6ha）樹種は生態林ではニセアカシア、コノテカシワ等、経済林は林檎である。第2年目以降は経済林がなくなり、その分生態林が増加し、**53.2ha** 全てが生態林となる。その結果、経済林の占める割合は30%程度となる。

以上